

「乙和の椿」



▲医王寺の一番奥、薬師堂裏にひっそりと佇む「乙和の椿」

佐藤一族の菩提寺、飯坂町の医王寺には、つばみが開かない1本の椿の木があります。

佐藤継信・忠信兄弟の母・乙和。息子2人を戦で亡くした母の深い悲しみが移ったかのように、椿の花が開かずにつばみのまま落ちてしまうことから「乙和の椿」と呼ばれるようになりました。

また、継信の妻・若桜と忠信の妻・楓は、深く傷ついた乙和の心を癒やすため、甲冑をまとい、夫の凱旋を演じたという逸話も伝えられています。

瑠璃光山 医王寺
飯坂町平野寺前45
☎542-3797
拝観時間／
午前8時30分～午後5時
※季節により変更有り。
拝観料／大人300円
(18歳以下無料)
※団体料金有り。
休日／年末年始



右／忠信奮戦
左／継信最期
医王寺瑠璃光殿 所蔵

弟・忠信もまた、源頼朝と対立し、追われる義経の身代わりとなり、京都堀川の館で命を落しました。

追われる身となった義経一行は、陸奥に下る途中、大鳥城に立ち寄り、佐藤基治と乙和に継信・忠信兄弟の活躍を報告しました。佐藤一族の菩提寺・医王寺で兄弟の大法要を挙げた後、継信・忠信のまげを埋め墓を建てました。このことは、能の「接待」という演目にもなり、後々まで語り継がれています。

継信・忠信兄弟の誉れ高い武勲の陰には、戦死した子を悲しむ母親の姿もありました。それを現代まで伝えている椿があります。医王寺境内の基治・乙和のお墓の脇にある「乙和の椿」は、2人の子を失った母「乙和」の深い悲しみがそのまま椿に移り、今もなお花が

開かずつばみのまま落ちてしまうといわれています。また、甲冑を身に付けた、継信の妻「若桜」は薙刀を、忠信の妻「楓」は弓矢を携え、「継信・忠信ただいま帰りました」と夫の凱旋を装いました。そして、悲しみにくれる乙和の心を慰めたという、家族の深い愛情をうかがい知ることが出来る逸話があり、医王寺には美しい2人の等身大の甲冑姿の人形がまつられています。

文治5年(1189年)になり、佐藤基治が福島の石那坂にて頼朝軍と果敢に戦い討ち死にしたというのが通説です。来年、平成30年は佐藤基治生誕900年を迎えます。皆さんもぜひ、医王寺を訪れ、飯坂温泉に漬かり900年の「時」に思いをはせていただければうれしいです。

福島市を中心とする「信夫庄」を長く治めていた佐藤一族。平安時代末期、平泉を中心とした東北地方で大きな勢力を誇っていた、奥州藤原氏の信頼の厚い家臣で、姻戚でもありました。中でも源義経と共に戦った佐藤継信・忠信兄弟の生きざまや家族との物語は今もなお人々を魅了し続けています。

今回、本市で開催するオペラ「乙和の椿」公演と「義経サミット」。「義経サミット」で講演される佐藤継信の子孫・佐藤信彦さんにお話を聞きました。

特集

武勲誉れ高い福島市の武将 その子孫が語る

佐藤継信・忠信兄弟



佐藤継信第三十三世苗裔*
佐藤 信彦さん

*苗裔…遠い子孫。

福島市を中心とする「信夫庄」を治めた佐藤継信・忠信兄弟の父・佐藤基治は、人々に「湯の莊司」と呼ばれ大変慕われていました。大鳥城主として、北は刈田一名取・柴田郡、西は米沢一山寺、東は伊達郡、南は白河の関まで治め、単に奥州藤原氏の一藩南の代官としてではなく、藤原清綱の娘(秀衡のいとこの「乙和」を妻にし、娘の「藤の江」も藤原秀衡の三男・忠衡に嫁がせたことにより、藤原氏の姻戚としても大変強いつながりを持っていました。

佐藤継信・忠信兄弟は治承4年(1180年)源頼朝の挙兵を知り、義経が奥州平泉から鎌倉にはせ参じる時、藤原秀衡の意をくんだ基治の命により義経に付き従いました。その後、兄・継信は文治元年(1185年)2月19日、源平屋島の合戦で、平教経が源義経を目掛けて放った強弓の前に立ちはだかり、義経の代わりに矢を受けて討ち死にしました。

源義経に関わった人物にゆかりのある自治体が集い、各地の歴史や伝承を発表。歴史を活用したまちづくりや交流について討論します。

観覧申し込み方法

8月31日(木)まで【必着】に、往復はがきでお申し込みください。

※申込者多数の場合は抽選になります。

往信・表面	返信・裏面	返信・表面	往信・裏面
〒960-8601 福島市 観光コンベンション 推進室 「義経サミット」 観覧係	(白紙) 何も記入しないでください。 結果を印刷しません。	応募者の ①郵便番号 ②住所 ③名前	応募者の ①郵便番号 ②住所 ③名前 (最大2人まで)

問／観光コンベンション推進室 ☎525-3722

義経サミット 検索

市制施行110周年記念事業シンボルイベント 義経・与一・弁慶・静・継信・忠信 合同サミット 入場無料

第12回
とき
9月30日(土)
午後1時開演(正午開場)
ところ
パルセいいざか

内容
・檜枝岐歌舞伎「義経千本桜」特別公演
・大鳥中学校 剣舞
・佐藤信彦さん(佐藤継信第三十三世苗裔)講演
・参加市町のパネルディスカッション
コーディネーター：福島大学行政政策学類教授の阿部浩一さん